

法面工（ポット苗）施工効率の向上

（社）高知県土木施工管理技士会
須工ときわ株式会社

工事主任 仙頭輝之
福富孔彦

1. 適用工種

法面工（ポット苗）L=11,300m

2. 改善提案

法面工（ポット苗）の施工効率向上を目的として、小段に区切られた法面を上下2段に分けて施工することにより法面工の作業効率を良くすると共に、高所作業の減少による作業の安全性の向上を目指した。

法面工（ポット苗）に使用する間伐材については施工性向上の為、表皮を剥ぎ取りタイコ切りした物を使用する。

3. 従来工法の問題点

従来どおり次の小段まで切土を行い法面工を行うと、高所作業が主となり作業効率と安全性が著しく低下する。

間伐材は同一形状の物を大量に確保するのが難しく、木柵の通り（段数）がそろいにくい。また表皮が付いているため虫等により腐食が進み耐久性に問題がある。

4. 工夫・改善点

小段に区切られた法面を上下2段に分け機械での作業を中心に施工し、人力での作業を低減した。

木柵に使用する間伐材は表皮を剥ぎ取りタイコ切りにした物を使用し、施工性、耐久性、美観の向上を図った（写真-1、2）。



写真-1 法面の2段施工



写真-2 間伐材（タイコ切り）設置状況

5. 効果

上下2段に分けて施工することにより安全に施工できると共に、機械での作業を中心に施工でき、人力での作業が低減でき作業効率が向上した。

木柵が一定の通り（段数）で施工でき、表皮を剥ぎ取った物を使用しているため、施工性・耐久性・色調に統一性があるため、美観が良い等の利点がある。

6. 適用条件

天候、作業環境、その他の諸条件も特に問題なく法面工（ポット苗）で適用できる。

7. 採用時の留意点

法面工（ポット苗）を施工する際に木柵の設置本数（段数）の検討が必要である。検討した段数により寸法を決定し、間伐材のタイコ切り寸法を決定する。



写真-3 法面工（ポット苗）全景